

競争的研究費の直接経費からの研究代表者(PI)の人件費支出に係る
活用実績報告書（令和7年度）

1. 実施状況

①事業名	②直接経費 から人件費 を支出し た、所属PI の人数(人)	③所属するPIについ て、直接経費から支 出した人件費の総額 (円)	④所属するPIについて、 直接経費から人件費を 支出したことにより確 保した財源の総額(円)
研究成果展開事業（JST）	4	6,346,784	6,346,784
国際科学技術共同研究推進事業 （JST）	1	5,400,000	5,400,000
先端国際共同研究推進事業／プロ グラム（JST）	5	15,159,058	15,159,058
戦略的創造研究推進事業（JST）	51	97,997,174	97,997,174
創発的研究支援事業（JST）	25	17,000,000	17,000,000
大学発新産業創出基金事業 （JST）	2	1,500,000	1,500,000
未来社会創造事業（JST）	2	5,860,000	5,860,000
環境研究総合推進費（ERCA）	3	2,788,124	2,788,124
革新的情報通信技術（Beyond 5G （6G））基金事業（NICT）	2	2,520,000	2,520,000
カーボンリサイクル・次世代火力 発電の技術開発事業（NEDO）	1	2,677,255	2,677,255
グリーンイノベーション基金事業 （NEDO）	6	11,770,670	11,770,670
経済安全保障重要技術育成プログ ラム（NEDO）	1	6,460,000	6,460,000
水素利用拡大に向けた共通基盤強 化のための研究開発事業 （NEDO）	5	11,191,925	11,191,925
脱炭素社会実現に向けた省エネル ギー技術の研究開発・社会実装促 進プログラム（NEDO）	1	1,279,565	1,279,565
電気自動車用革新型蓄電池技術開 発（NEDO）	1	4,200,000	4,200,000

(別添様式3)

電波資源拡大のための研究開発 (MIC)	2	860,000	860,000
ゲノム研究を創薬等出口に繋げる 研究開発プログラム (AMED)	2	2,460,000	2,460,000
ワクチン・新規モダリティ研究開 発事業 (AMED)	1	1,060,000	1,060,000
ワクチン開発のための世界トップ レベル研究開発拠点の形成事業 (AMED)	4	8,240,000	8,240,000
革新的がん医療実用化研究事業 (AMED)	2	2,080,000	2,080,000
肝炎等克服実用化研究事業 (AMED)	1	2,000,000	2,000,000
健康・医療分野におけるムーンシ ョット型研究開発等事業 (AMED)	3	6,020,000	6,020,000
国家課題対応型研究開発推進事業 (AMED)	15	26,882,991	26,882,991
国際科学技術共同研究推進事業 (AMED)	1	2,484,248	2,484,248
再生医療・遺伝子治療の産業化に 向けた基盤技術開発事業 (AMED)	1	4,249,809	4,249,809
次世代がん医療加速化研究事業 (AMED)	4	4,020,000	4,020,000
次世代ヘルステック・スタートア ップ育成支援事業 (AMED)	1	3,600,000	3,600,000
新興・再興感染症に対する革新的 医薬品等開発推進研究事業 (AMED)	2	1,640,000	1,640,000
新興・再興感染症研究基盤創生事 業 (AMED)	4	2,860,000	2,860,000
先端国際共同研究推進事業／プロ グラム (AMED)	3	3,099,999	3,099,999
戦略的創造研究推進事業 (AMED)	8	20,480,000	20,480,000
創薬基盤推進研究事業 (AMED)	2	3,788,834	3,788,834

(別添様式3)

難治性疾患実用化研究事業 (AMED)	1	900,000	900,000
優れた医療機器の創出に係る産業 振興拠点強化事業 (AMED)	1	1,816,901	1,816,901
国家課題対応型研究開発推進事業 (MEXT)	2	5,478,616	5,478,616
合計	170	296,171,953	296,171,953

2. 確保した財源の使途、具体的な活用内容、効果等

確保した財源を活用し、直接経費から人件費を支出した研究者自身への特別手当の支給等による処遇改善を行うとともに、機関の研究力強化に資する取組を行った。

具体的には、若手研究者等の雇用・育成に係る「人材」の戦略的強化、データ解析環境の高度化や研究 DX の推進、萌芽的研究等に機動的に活用できる研究「資金」の提供、および共用設備の安定運営や施設・機器の整備による研究「環境」の構築に活用した。これにより、意欲ある研究者が安定して研究に専念できる体制が強固となり、研究成果のさらなる発展に寄与した。

3. 策定した活用方針や活用実績を公表している研究機関のホームページ等の URL を記載してください。なお、各研究機関における研究力向上に向けた実施事例については、好事例として政府のホームページでも公表させていただく場合があります。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/activity/efforts/pi>